

# 石川県と富山県に分布を拡大したラミーカミキリ

吉道俊一<sup>1)</sup>・富沢 章<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> 〒 921-8135 石川県金沢市四十万 3-77-201

<sup>2)</sup> 〒 923-0911 石川県小松市大川町 3-71

## The distributional expansion of *Paraglenea fortunei* (Saunders, 1853) in Ishikawa and Toyama Prefectures, Japan

Syun-ichi YOSHIMICHI and Akira TOMISAWA

### はじめに

ラミーカミキリ *Paraglenea fortunei* (Saunders, 1853) は中国原産のカミキリムシで、日本では侵入昆虫としてよく知られた種であり、近年各地で分布の拡大状況が報告されてきた。

特に紀伊半島ではその分布拡大状況が詳細に調査されており、1971年に三重県から初めて発見されて以降、37年間をかけて紀伊半島のほぼ全域に分布を拡大したという(加藤・大林, 2010)。一方、石川県の隣県である福井県では、保科ら(2007, 2008)や下野谷(2008)により詳細な調査が行われており、福井県内の分布拡大状況が把握されている。それらの報告によると、1999年の高浜町音海における初記録以降、比較的速いスピードで北上しており、2007年には福井市の海岸部や(保科ら, 2007)内陸の勝山市にまで(下野谷, 2008)北上していることが確認されている。

これらの状況から本種の石川県への侵入も時間

の問題と考えられたため、石川県内への侵入の経路を探るべく、県内の愛好家が福井県に近い県道沿いや海岸沿いなどでの探索を行っていた。しかしながら、2009年以降空振りの年が続き、いつしか本種のことを忘れかけていた2013年、意外な場所で、しかも意外な方法で本種が石川県において確認され、さらには富山県へも侵入し始めていたことが確認されたのでここに報告する。

### 確認状況

石川県で最初に本種の生息が確認されたのは、福井県との県境から約70 km北に位置する石川県河北郡津幡町俱利伽羅であった。同地は木曾義仲(源義仲)と平維盛の率いる平家軍との間で行われた合戦「俱利伽羅峠の戦い」の主戦場となったことで有名な地であり、本種が確認された地点はこの俱利伽羅峠に隣接した地点であった。筆者らは、2013年6月30日に同地において蛾類や甲虫類など

の調査を目的とした「灯火採集」を行っていたが、その時に石川県初記録となるラミーカミキリが飛来したのである。本種が福井県境付近ではなく県境からは遠く離れた地点で初めて確認されたことに驚き、その後、周辺の状態を確認するための調査を行った。

その結果、灯火採集地点の周辺には本種の食草となるカラムシの群落があり(図1)、同群落において複数個体の本種(図2)と特徴的な本種の食痕を確認した(図3)。さらには津幡町大窪



図1-4. 1, 津幡町俱利伽羅におけるラミーカミキリの確認環境; 2, 確認された本種; 3, 確認された食痕; 4, 小矢部市植生における本種の確認環境。

や同町の森林公園など、複数の地点でも本種の生息または生息の痕跡を確認することができた。これらはいずれもカラムシの群落において確認した。また、本種を最初に確認した津幡町俱利伽羅は富山県小矢部市に近接していることから、富山県側へも侵入している可能性が考えられたため、小矢部市側の俱利伽羅古戦場跡から矢立山へかけての道路沿いを探索した。その結果、同道路沿いのカラムシ群落において本種の生息が確認された。しかしながら、富山県側では1個体を目撃したにとどまり（捕獲を試みたが採り逃がしてしまった）、かつ本種の食痕も石川県側と比較して少なかったことから、2013年の時点では、富山県側へは侵入して間もない状況であることが推測された。

2013年に石川県と富山県でラミーカミキリの成虫個体を確認した地点は以下の通りである。

1♂, 石川県河北郡津幡町俱利伽羅, 30-VI-2013, 富沢章採集（灯火採集）；2♂1♀, 同上, 15-VII-2013, 富沢章・吉道俊一採集, 食痕多数確認；3♂3♀, 石川県河北郡津幡町大窪, 15-VII-2013, 富沢章・吉道俊一採集, 食痕多数確認；1ex.（目撃）, 富山県小矢部市石坂, 15-VII-2013, 吉道俊一目撃, 食痕少数確認（図4）。

以下の地点では食痕のみを確認した。

石川県津幡町森林公園内, 15-VII-2013, 食痕少数確認；石川県津幡町吉倉, 12-VIII-2013, 食痕少数確認。

以上の確認地点を図5に示した。

## おわりに

今回の事例により、ラミーカミキリが石川県と富山県にも侵入したことが確認された。過去の本種の分布拡大状況から、本種は福井県から石川県を經由し、富山県へと分布を拡大させているものと推察されるが、保科らの報告（保科ら, 2008）を基に推測した経路で確認されることなく、石川県の中央付近に位置する津幡町で突然確認されたことは意外であった。今となっては石川県への侵入時期や経路を特定することは困難であるが、津幡町の5地点で成虫や食痕が確認されていることから、少なくとも確認時より2-3年前、つまり、2010-2011年頃には津幡町へ到達していた可能性が高い。一方、小矢部市埴生では丹念に探索したにもかかわらず1個体を目撃したのみであり、食痕もわずかに確認されたに過

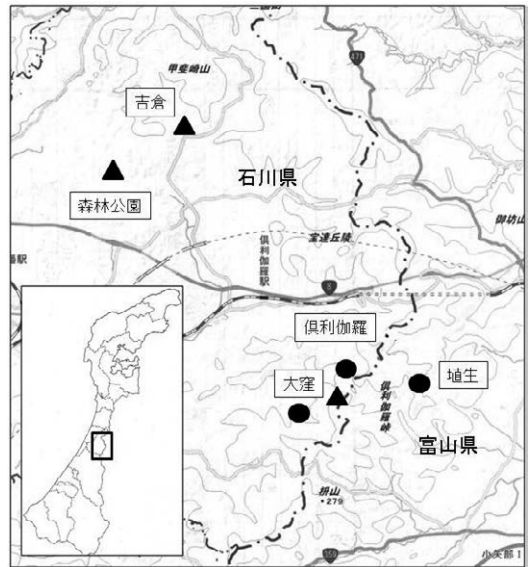


図5. 2013年7月時点の石川県および富山県におけるラミーカミキリの確認状況（●：成虫個体を確認、▲：本種の食痕のみを確認）。国土地理院地理院地図（電子国土Web）を用いて作図。

ぎない。そのため、ごく近年に石川県側から侵入したものと推察された。

今後、石川県では福井県境から津幡町へ至る地域（白山市, 加賀市, 金沢市など）の生息状況を明らかにするとともに、津幡町から北の地域についてもどこまで北上するのかを見極めたい。また、富山県においても本種の分布拡大が予想されるため、石川県との県境を中心に幹線道路沿いなどでの分布調査を実施する必要があるだろう。

## 引用文献

- 保科英人, 2007. 福井県内のラミーカミキリについて. 甲虫ニュース, (157): 13-19.
- 保科英人・柴田大輔・小西洋祐・中田真梨・野村靖子・羽二生麻衣・若松康一郎, 2008. 福井県内の侵入種ラミーカミキリの分布拡大に関する一考察. 福井市自然史博物館研究報告, (55): 111-121.
- 加藤敦史・大林延夫, 2010. 紀伊半島におけるラミーカミキリ *Paraglenea fortunei* (鞘翅目: カミキリムシ科) の分布拡大. 日本応用動物昆虫学会誌, 54(3): 127-134.
- 下野谷豊一, 2008. 福井県におけるラミーカミキリ (コウチュウ目) とクロメンガタスズメ (チョウ目) の分布状況. 福井市自然史博物館研究報告, (55): 109-110.

(2014年5月26日受領, 2014年8月21日受理)